

1 はじめに

本懇談会は、酒田市公共施設等総合管理計画に基づく公共施設の適正化を進めるために、施設を利用する団体の意見を聴き、施設の在り方を考えることを目的として設置しています。

今年度は、稼働率が他地域と比較して低く、建物の老朽化が進んでいるため、松山と平田地域の公共施設をテーマにしました。

(1)酒田市の公共施設の現状と課題

- ・ 合併前の旧1市3町時代に整備された施設がそのまま残っており、同じ目的や用途の施設が多く存在しています。
- ・ 人口減少も進んでおり、稼働率が10%に満たない施設も多い状況です。
- ・ 全ての施設を維持することは、維持管理費の増加となり、現在の行政サービスを継続することが困難になります。
- ・ 公共施設は多くの人に利用されるべきであり、まずは利用拡大を図る必要があります。しかし、それが達成できない場合は、施設の統廃合や複合化を検討する必要があります。

(2)松山及び平田地域の公共施設の特徴

- ・ 同じ目的や用途の施設が多く、旧町の中心部が近いため、施設自体も近接しています。
- ・ 稼働率の低い施設が多く、施設の統合等により効率的な管理運営や稼働率の向上が期待できます。

2 懇談会で出された主な意見

- ・施設数を減らすことは必要だが、地域振興のために必要な施設(ホールなど)は長く維持する必要がある。大きな会議やイベントが安定して開催できることが重要である。
- ・地域活動が自治会長等の負担で成り立っていることや、人口減少に伴い、自治会長及びコミュニティ振興会長の担い手不足は深刻で、コミュニティ組織自体の在り方が問われている。
- ・今回の議論は、松山と平田だけであるが、全市的に考える必要がある。
- ・利用率が低い施設に管理人を置くのは無駄だと感じる。
- ・統廃合や複合化は一気にはできないので、段階的に進めて欲しい。

3 公共施設の適正化に向けた基本的な考え方

(1)速やかに取り組むべき方向性

ア 施設の統廃合と複合化による施設保有量の適正化

施設の機能をできる限り維持することを前提として、稼働率が低く、重複、類似した機能を持つ施設は、統廃合や複合化により、将来に必要な施設サービスの質と量を踏まえた施設保有量の適正化を図る。

イ 利用者の利便性を考慮した段階的なアプローチ

利用者の利便性を損なわないようにするため、施設の統廃合や複合化は、利用者や市民の意見も伺いながら、段階的かつ計画的に実施する。

ウ 全市的な統廃合・複合化の拡大

松山及び平田地域だけでなく、全市的な取り組みとして統廃合・複合化を進め、持続可能なまちづくりを推進する。

(2)今後検討が必要な課題

- ・総合支所機能の在り方
- ・コミュニティセンターの組織と施設の在り方